

異世界

3.0

あ

100
COMIC MARKET
FRIENDSHIP FOREVER

ショタ
おね

おねショタでは
ありません

SKIN
COLOR

18歳未満の
購入・閲覧禁止

ショタ
攻

ショタおねです
注意してください



金貨五十枚
それが彼女の値段だった

健康で傷もなく従順—
主人に逆らわないよう
魔法もかけられている

友達の借金を肩代わり
したせいで奴隷落ち
してしまったらしい

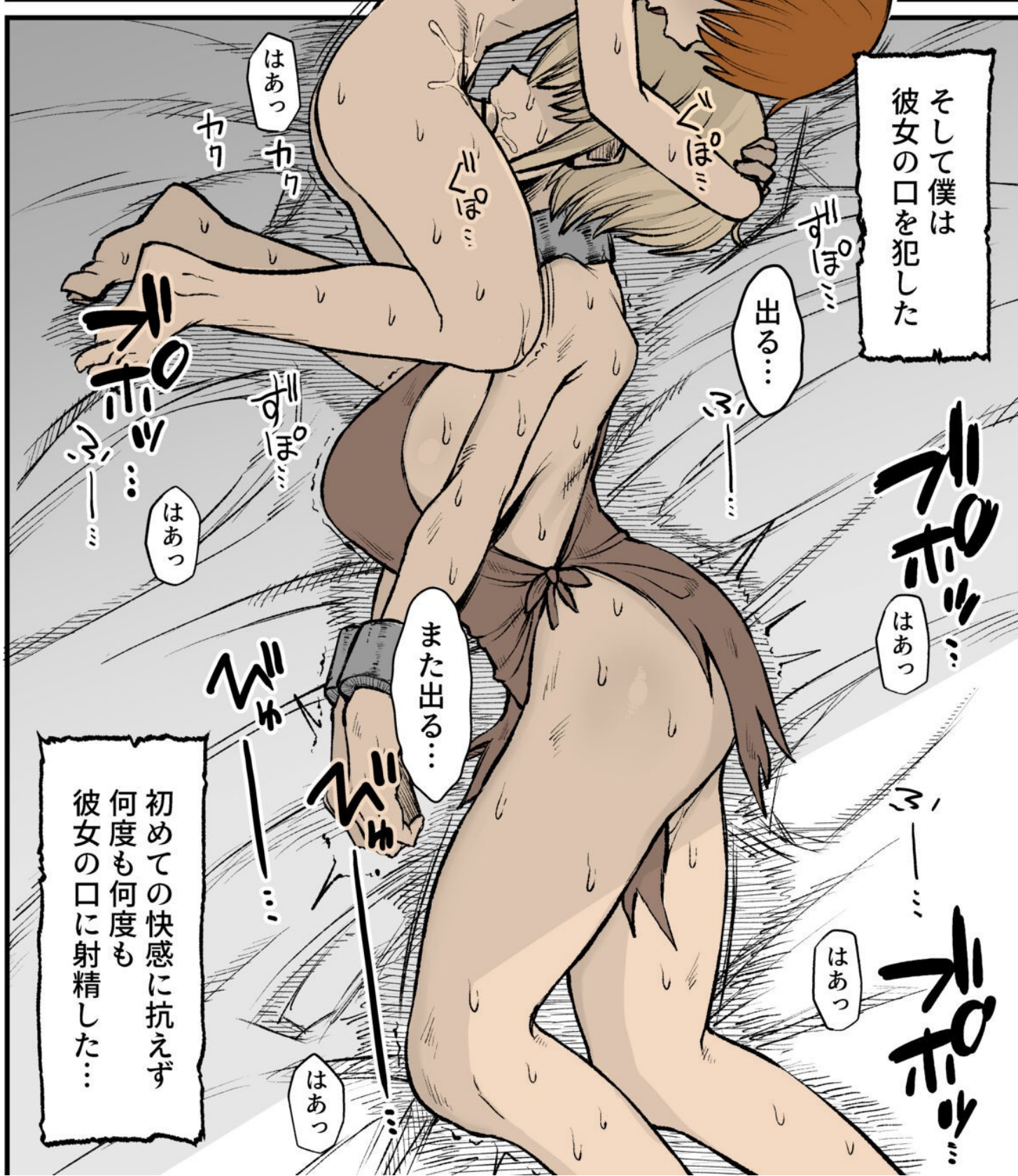
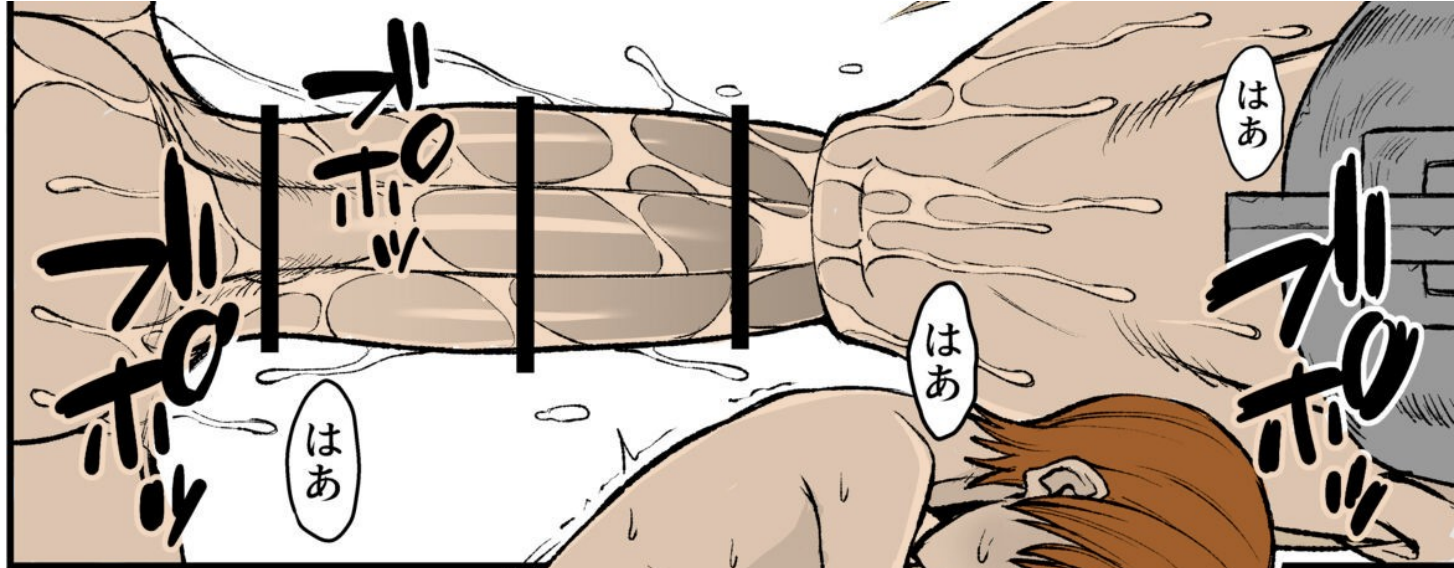
僕はお姉さんのことを
可哀想だと思った。
それと同時に—

これからこのお姉さんは僕のもので
なにを命令しても良いということ
好きにしていいたいこと…

服…

脱いで
くれますか？

不安そうにしている
表情を見て僕は…
興奮してしまっていた



はあ

はあ

はあ

そして僕は
彼女の口を犯した

すほ...

出る...

ふ...

はあ

はあ

はあ

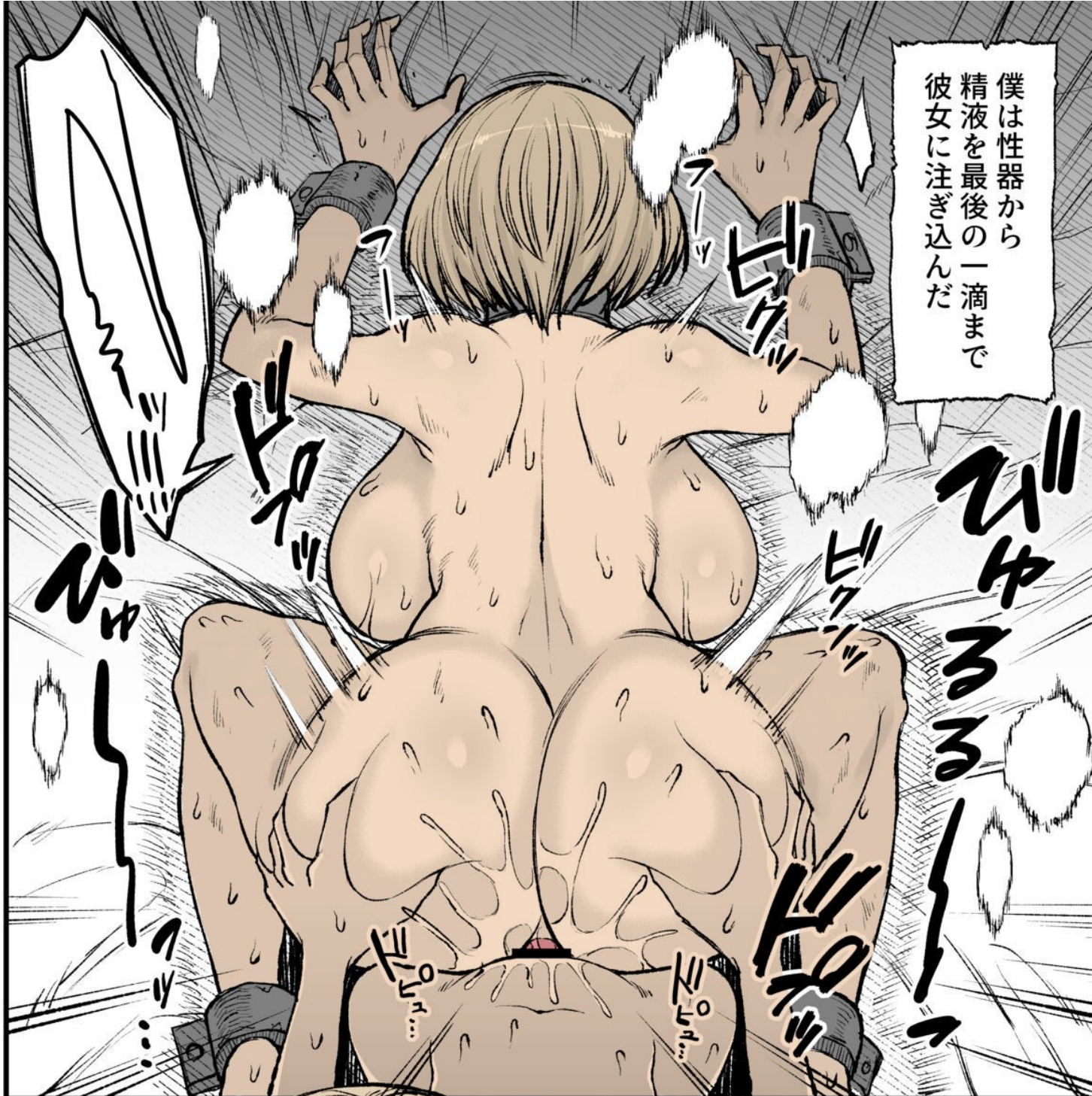
また出る...

はあ

はあ
かり

初めての快感に抗えず
何度も何度も
彼女の口に射精した...

僕は性器から
精液を最後の一滴まで
彼女に注ぎ込んだ

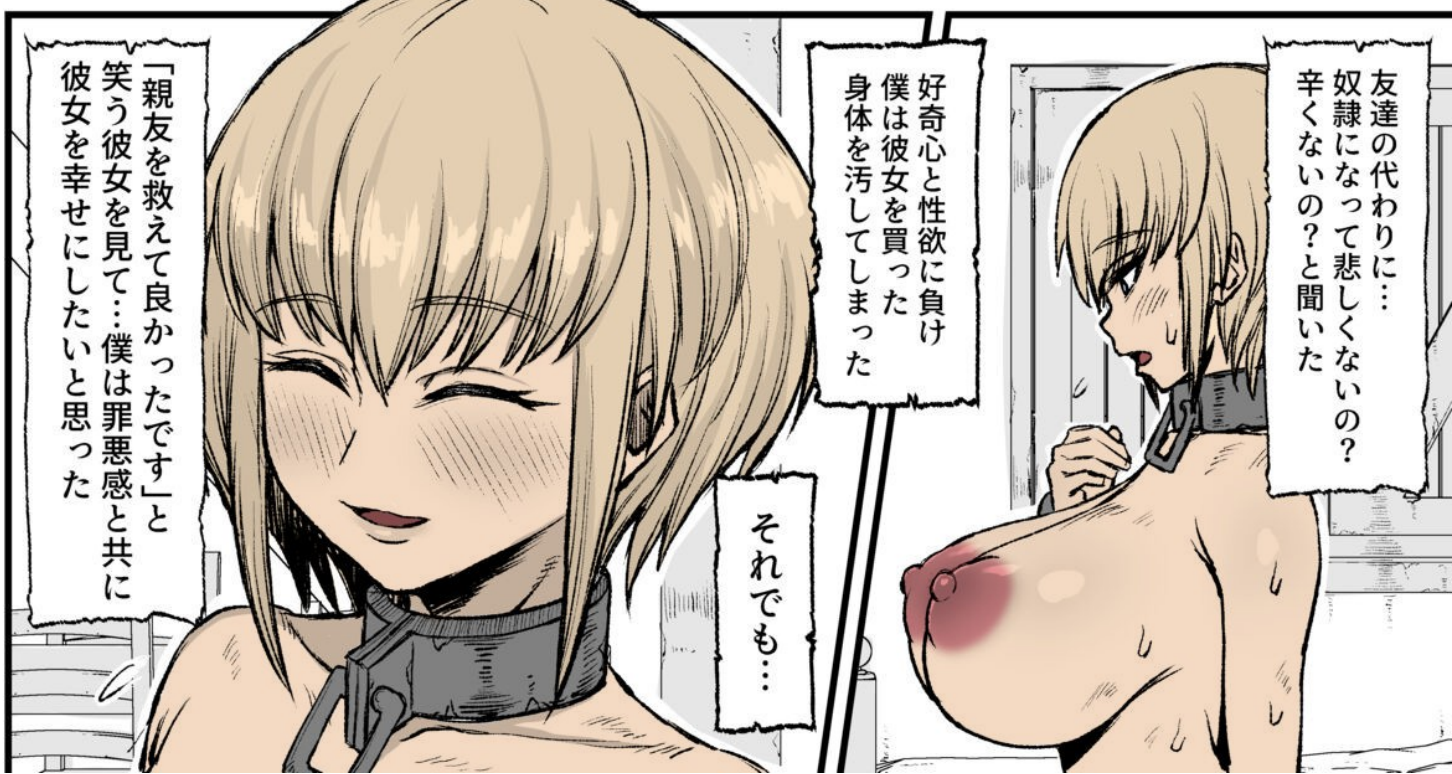


友達の代わりに…
奴隷になって悲しくないの？
辛くないの？と聞いた

好奇心と性欲に負け
僕は彼女を買った
身体を汚してしまった

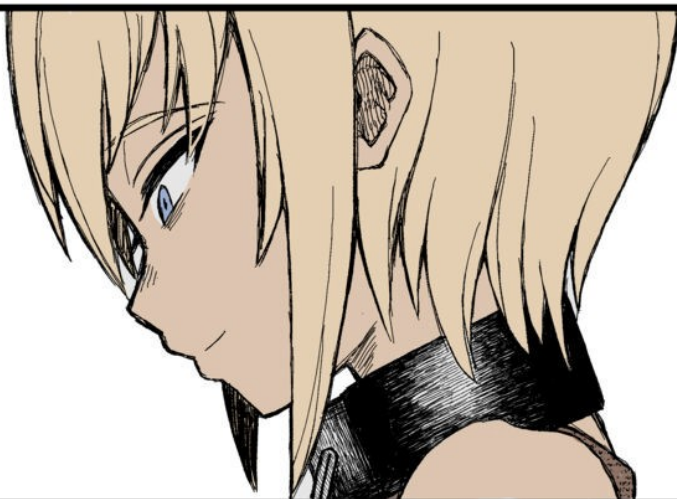
それでも…

「親友を救えて良かったです」と
笑う彼女を見て…僕は罪悪感と共に
彼女を幸せにしたいと思った

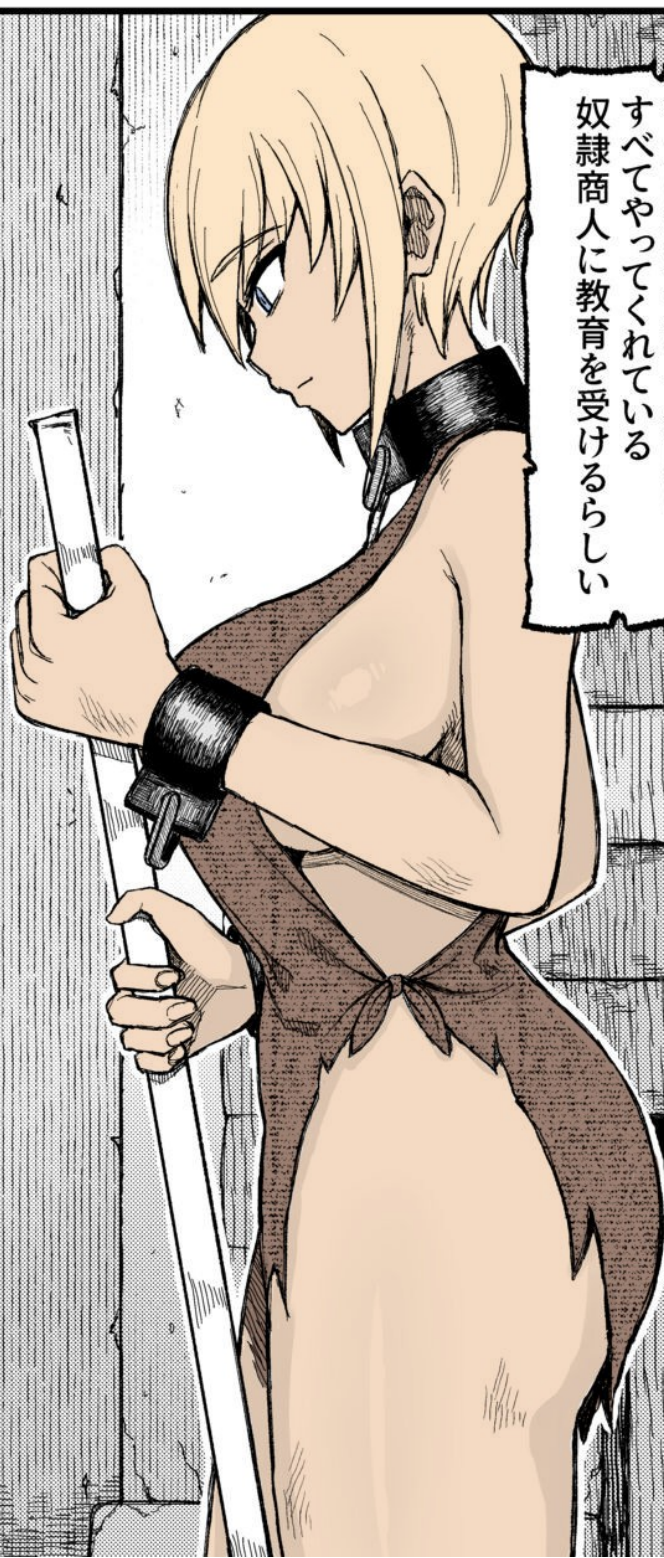


僕は彼女を
買った

僕が買った。
僕だけの奴隷

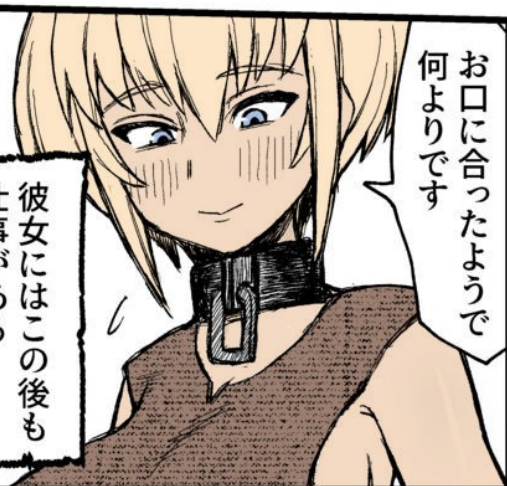


彼女は料理や掃除、雑用は
すべてやってくれている
奴隷商人に教育を受けるらしい



お口に合ったようで
何よりです

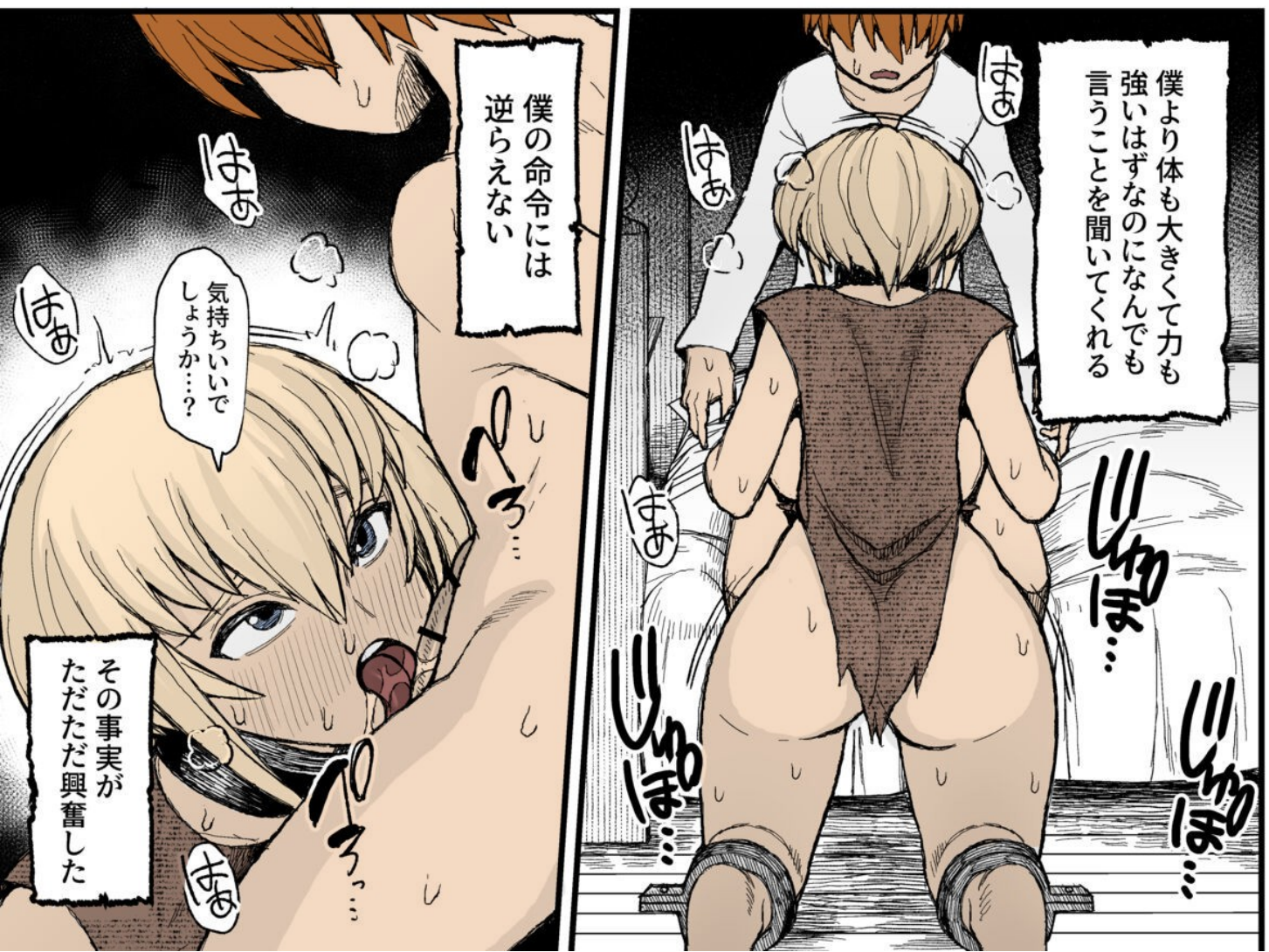
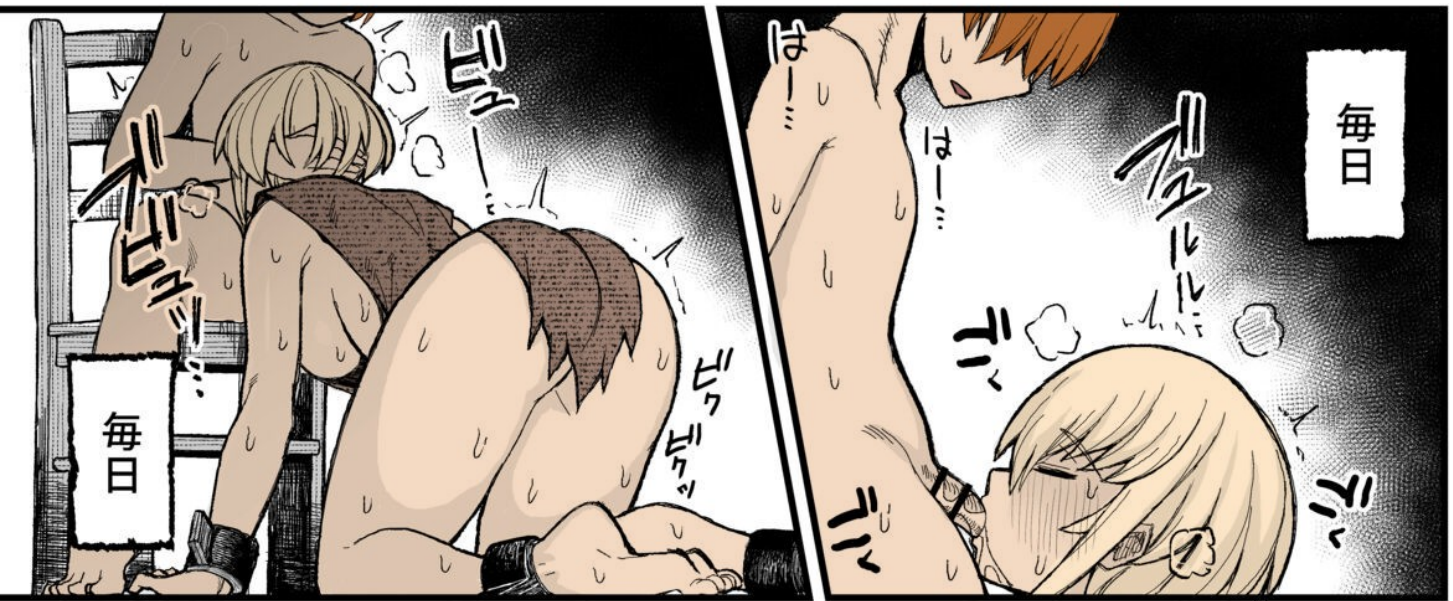
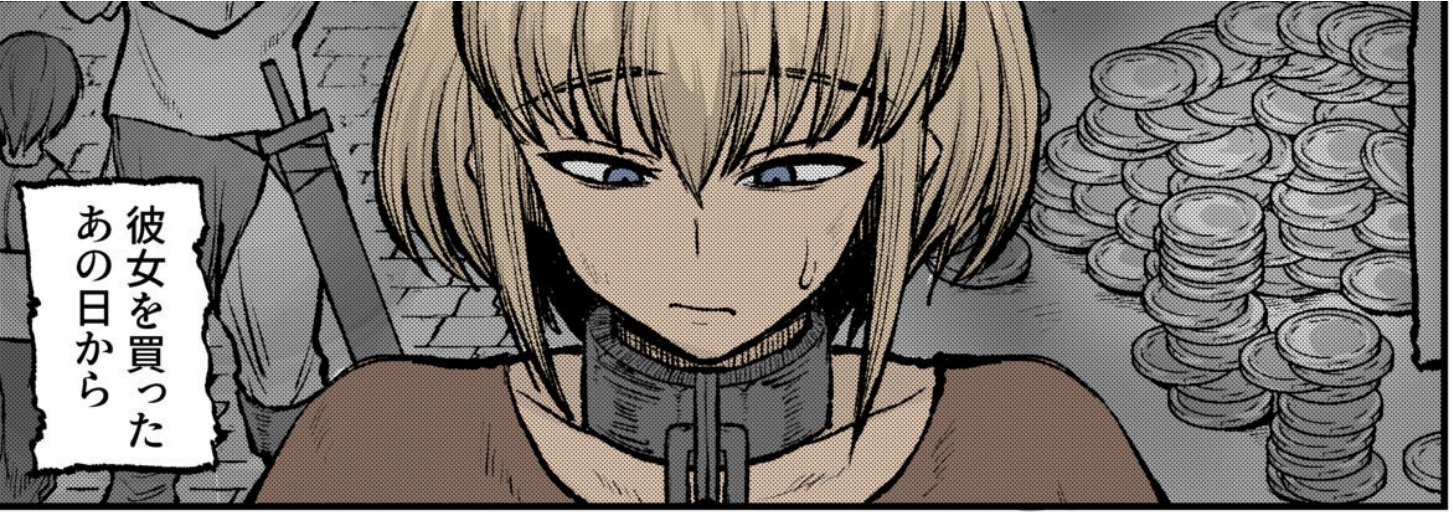
彼女にはこの後も
仕事がある

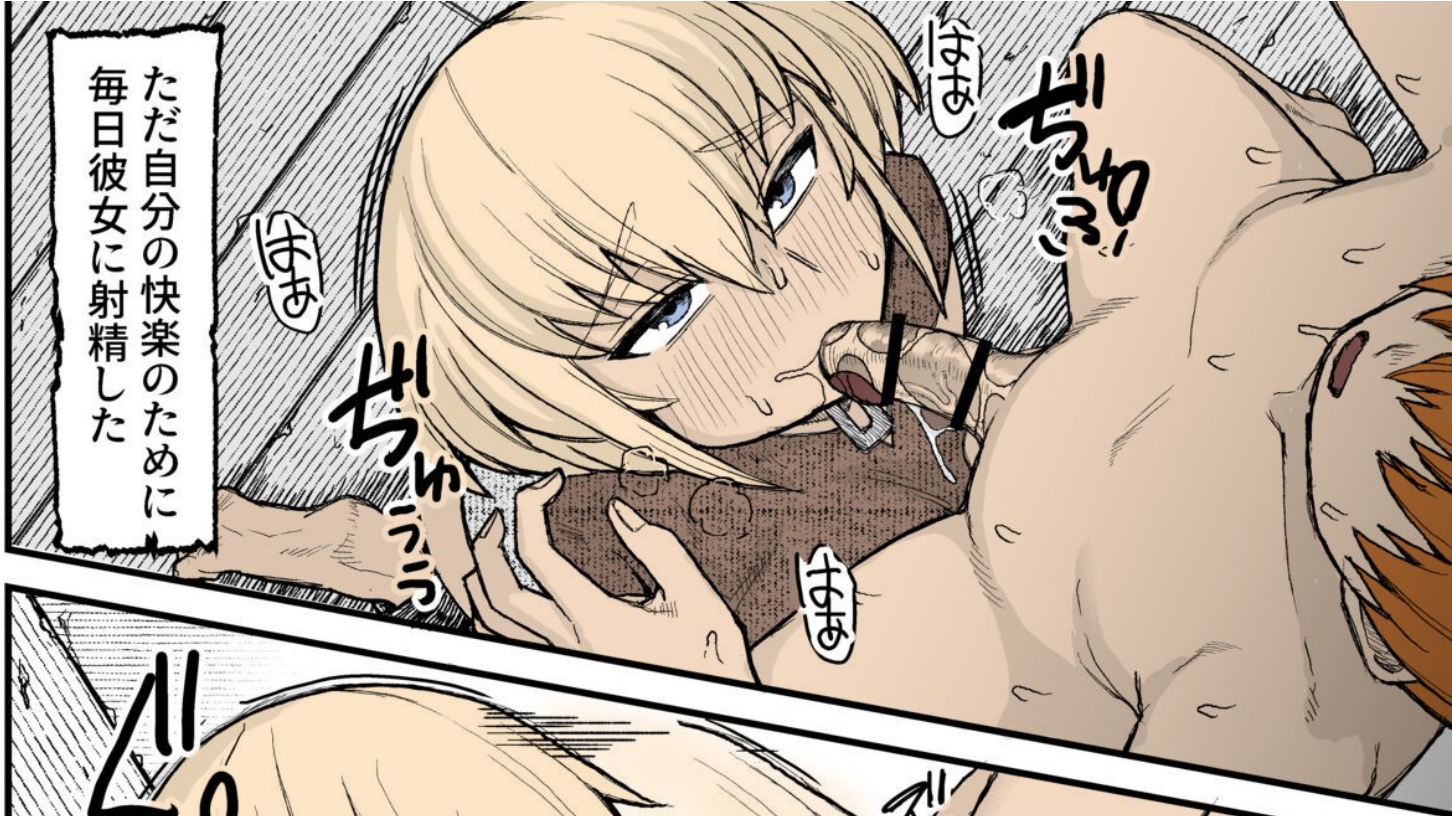


この後…
いいかな…?

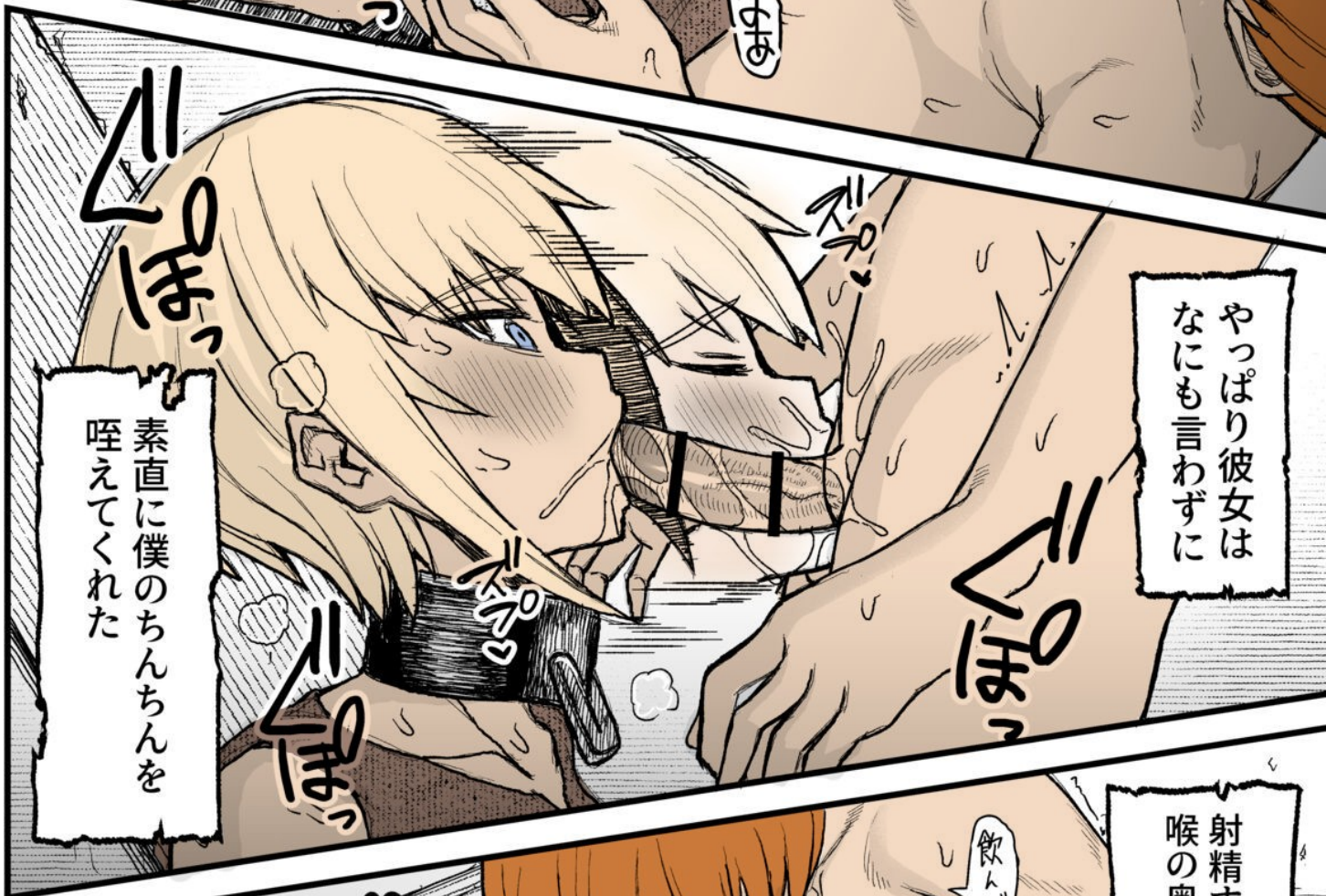
…はい





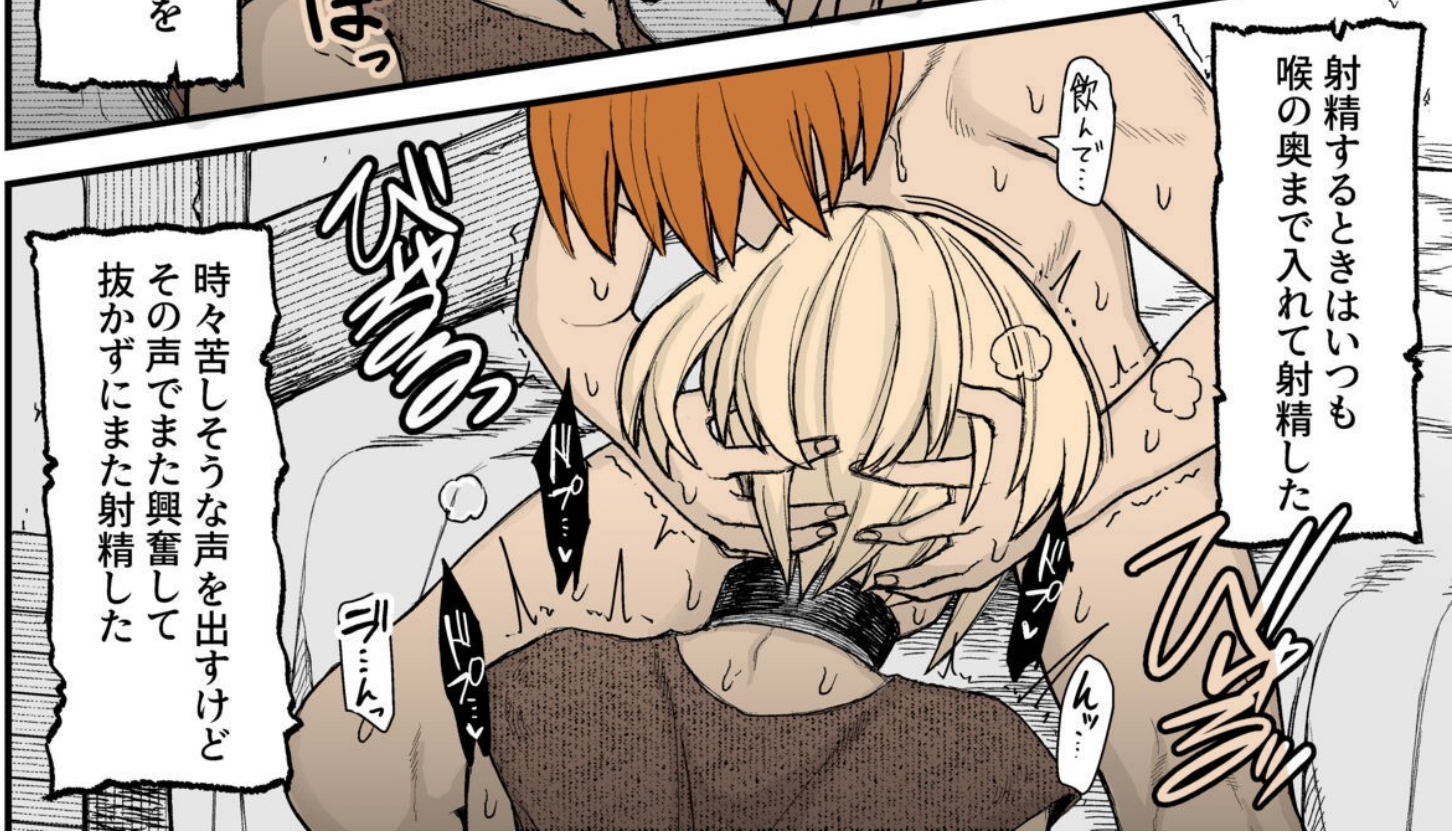


ただ自分の快樂のために
毎日彼女に射精した



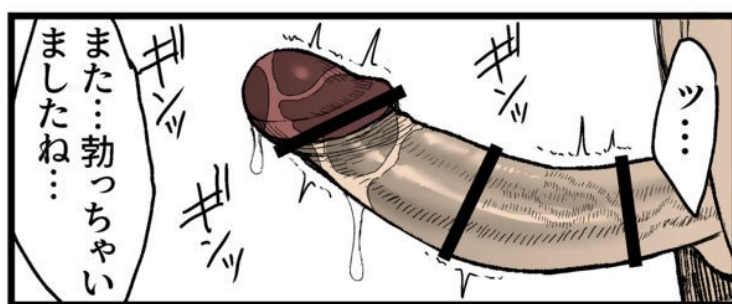
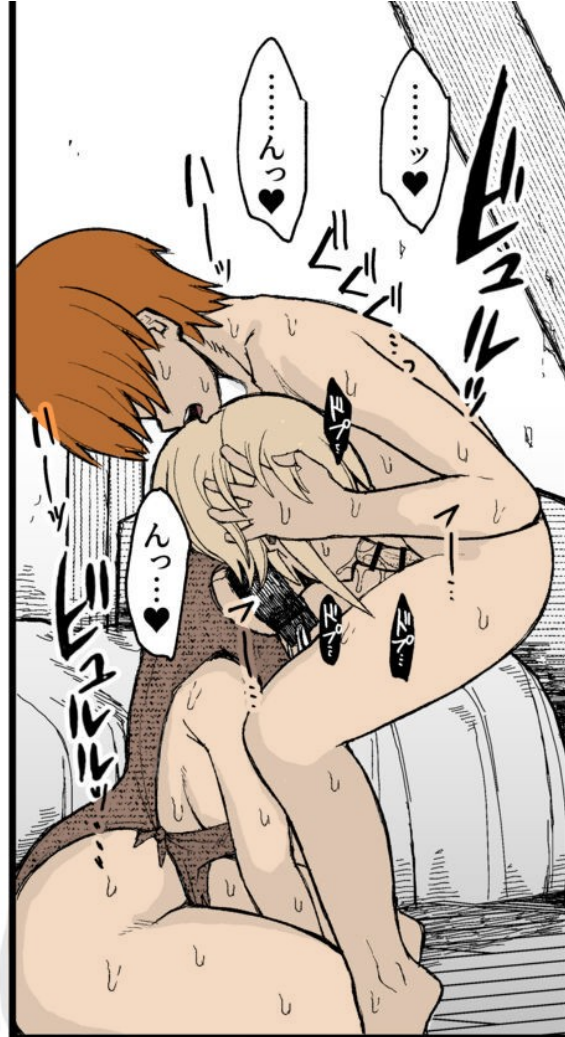
やっぱり彼女は
なにも言わずに

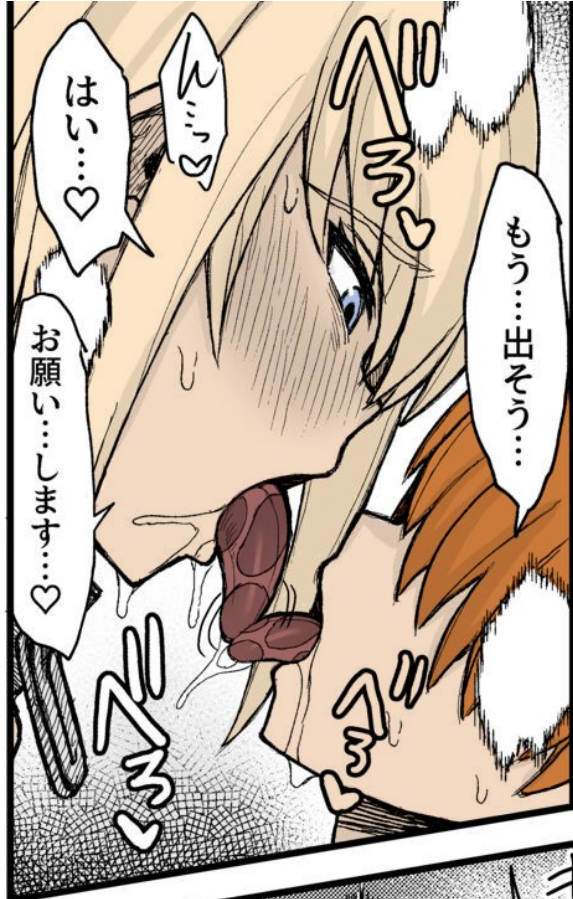
素直に僕のちんちんを
啜えてくれた



射精するときはいつも
喉の奥まで入れて射精した

時々苦しそうな声を出すけど
その声でまた興奮して
抜かずにまた射精した



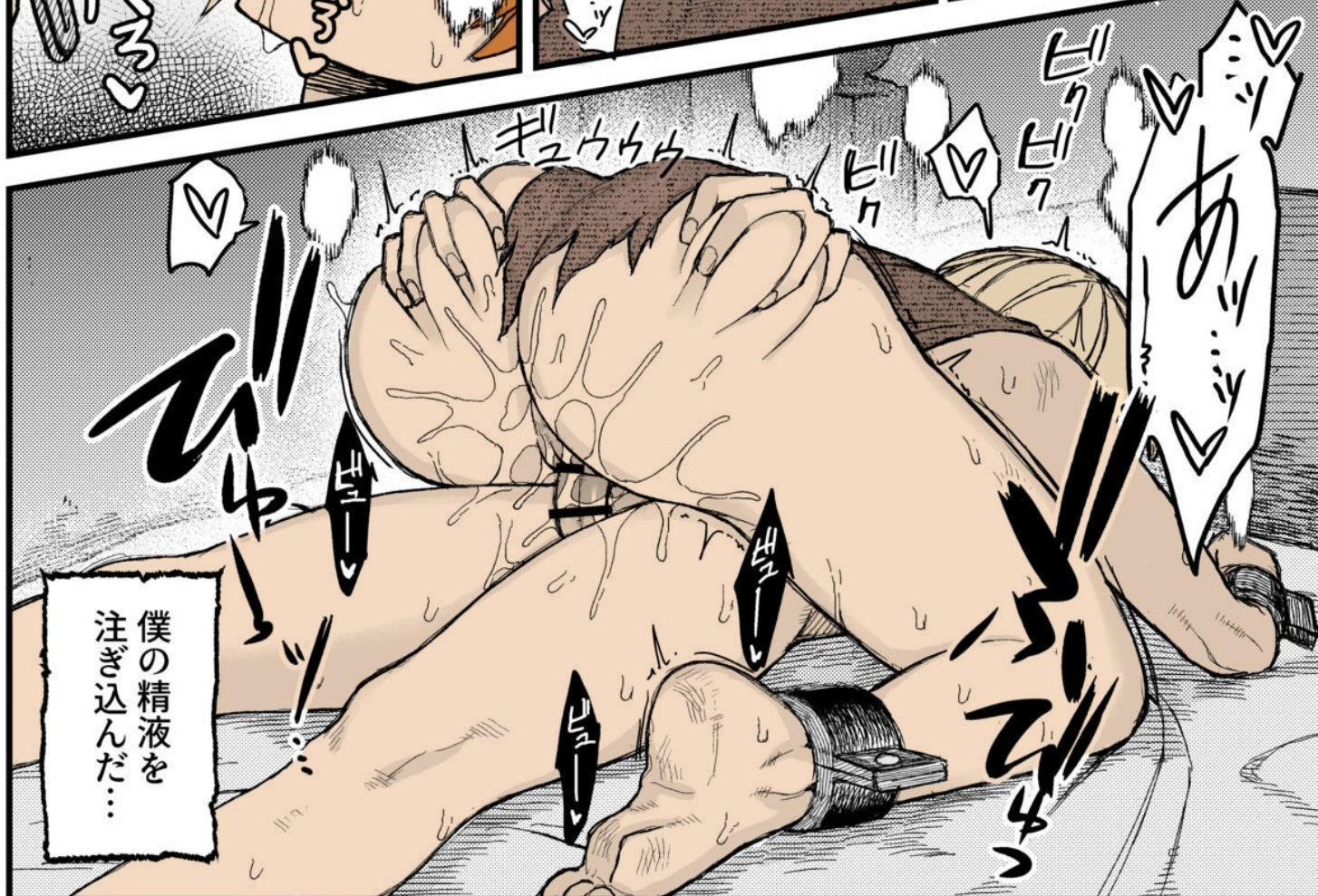
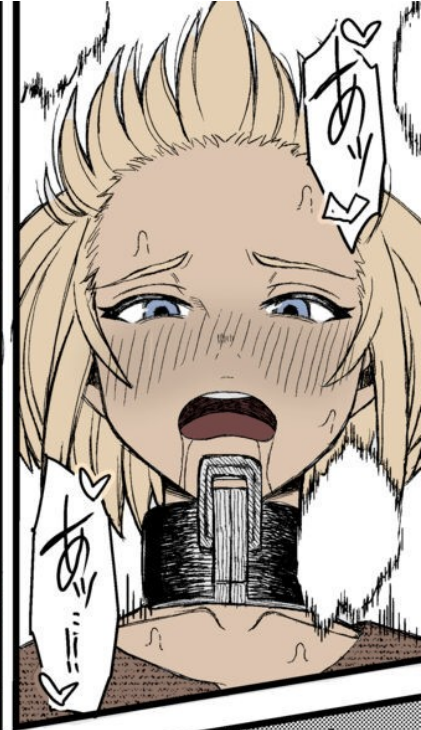


はい…♡
お願い…します…♡

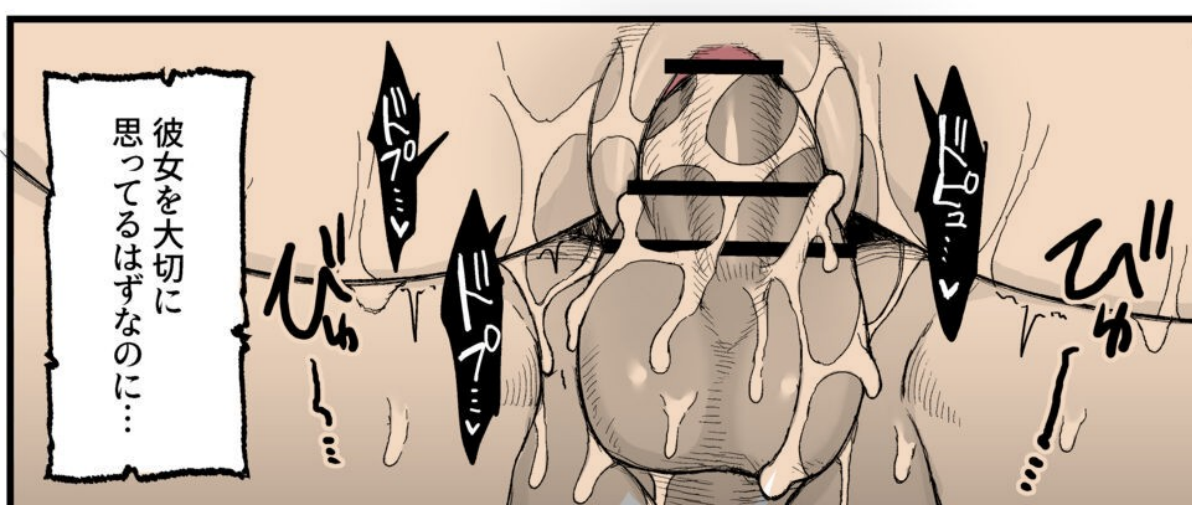
もう…出そう…



そしてまた
彼女の膣内に…



僕の精液を
注ぎ込んだ…



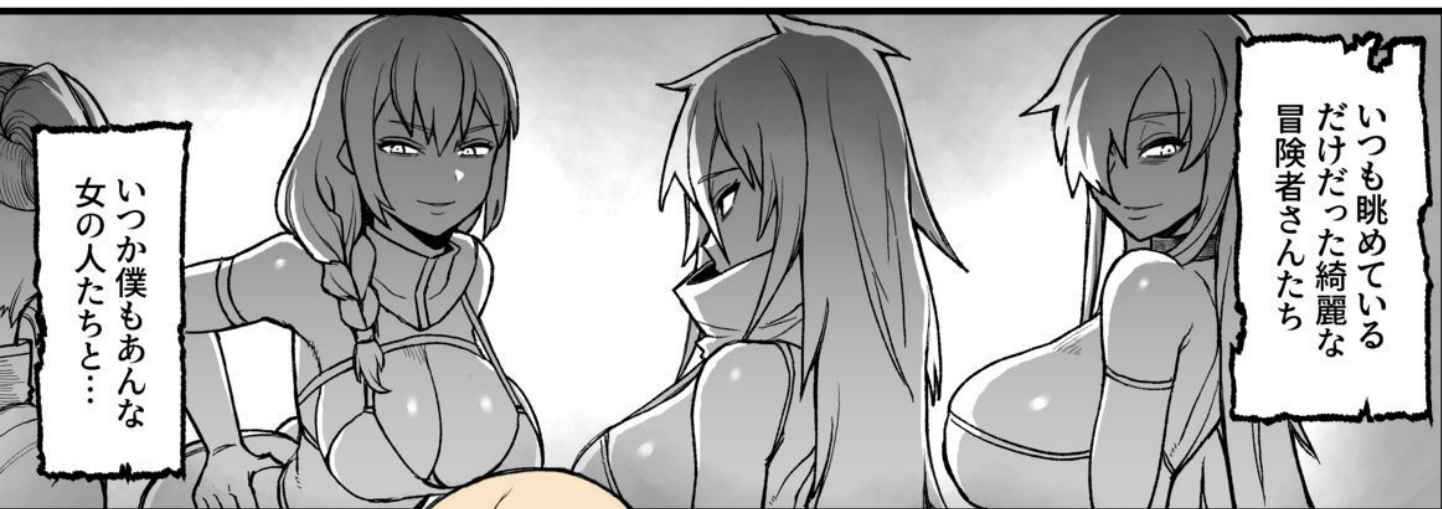
彼女を大切に
思ってるはずなのに…

膣の奥まで射精していると
「この雌は僕のものだ」
そんな黒い気持ちに
なってしまった



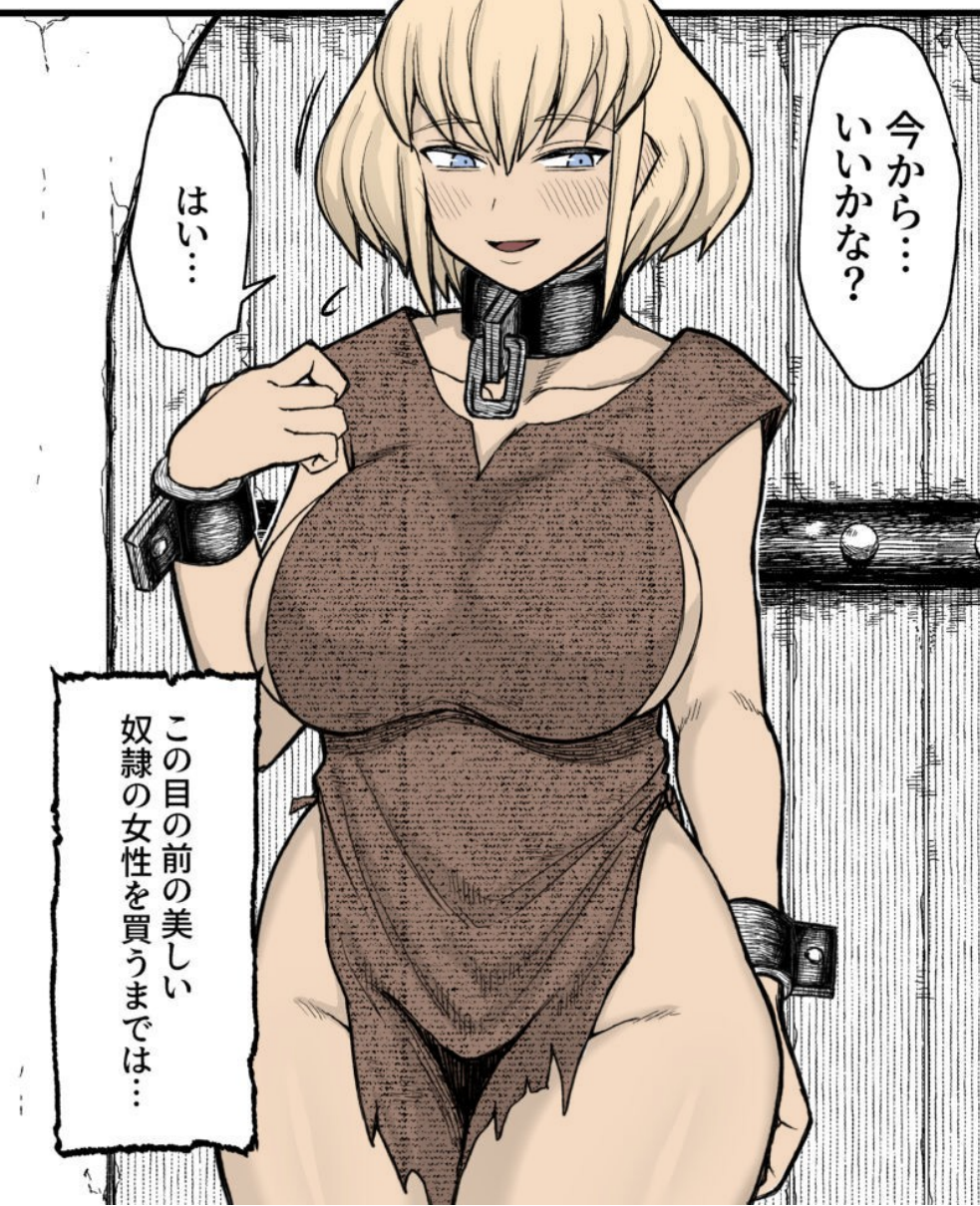
彼女の身体を弄び
色を覚えた
僕の性的欲求は

止まらなかった



いつも眺めている
だけだった綺麗な
冒険者さんたち

いつか僕もあんな
女の人たちと…



今から…
いいかな？

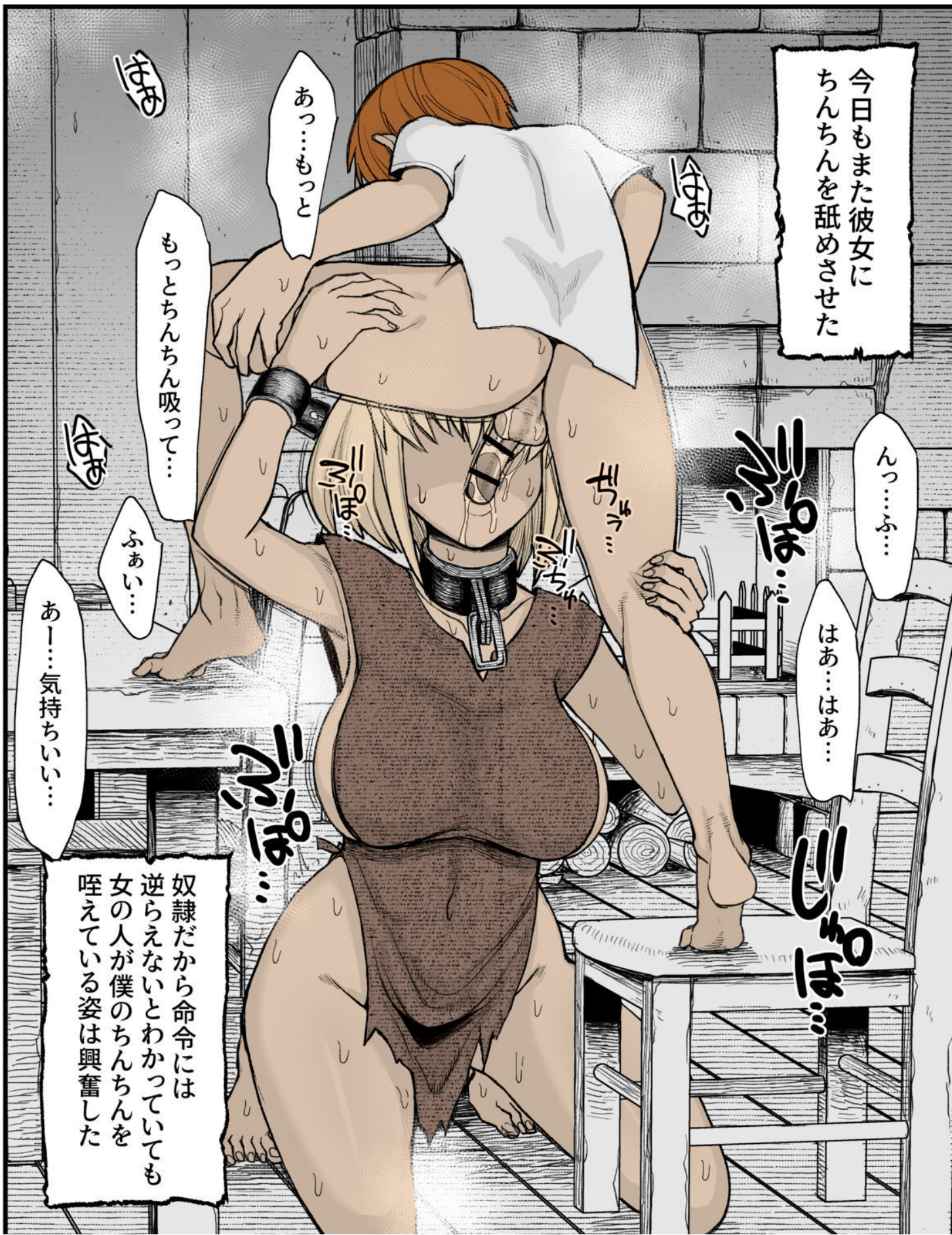
はい…

この目の前の美しい
奴隷の女性を買うまでは…



こんなことばかり
考えていた…

その…



今日もまた彼女に
ちんちんを舐めさせた

んっ...ふ...

はあ...はあ...

ぐほ...

ぐほ...

ぐほ...

ぐほ...

ぐほ...

ぐほ...

あっ...もっ

もっちんちん吸って...

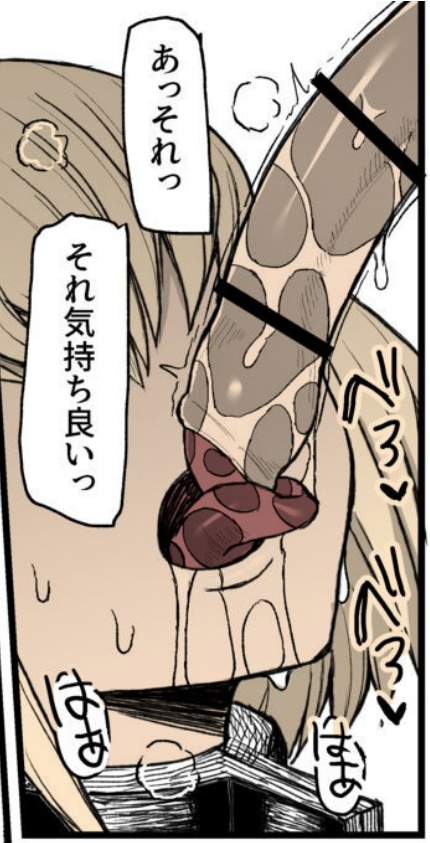
はあ

はあ

ふあい...

あー...気持ちいい...

奴隷だから命令には
逆らえないとわかっていても
女の人が僕のちんちんを
咥えている姿は興奮した



あつそれっ

それ気持ち良いっ

はぁ



でっ射精る…っ

ちゅぽっ

はぁ



僕はまた彼女の
喉奥に精液を
流し込んだ

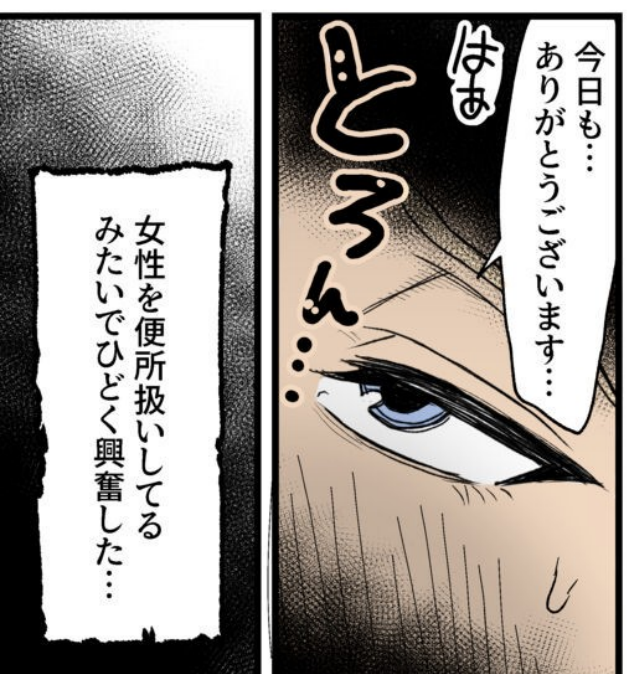
んん…っ

飲んでっ…

全部飲めっ…

ん…

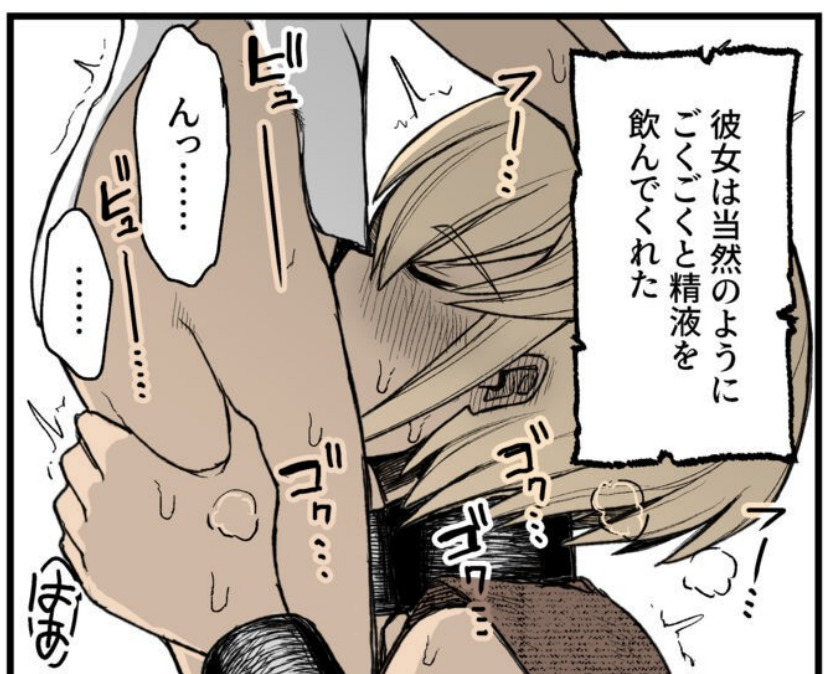
ちんちんを舐められると
僕は射精のことしか
考えれなくなった…



今日も…
ありがとうございます…

はぁ

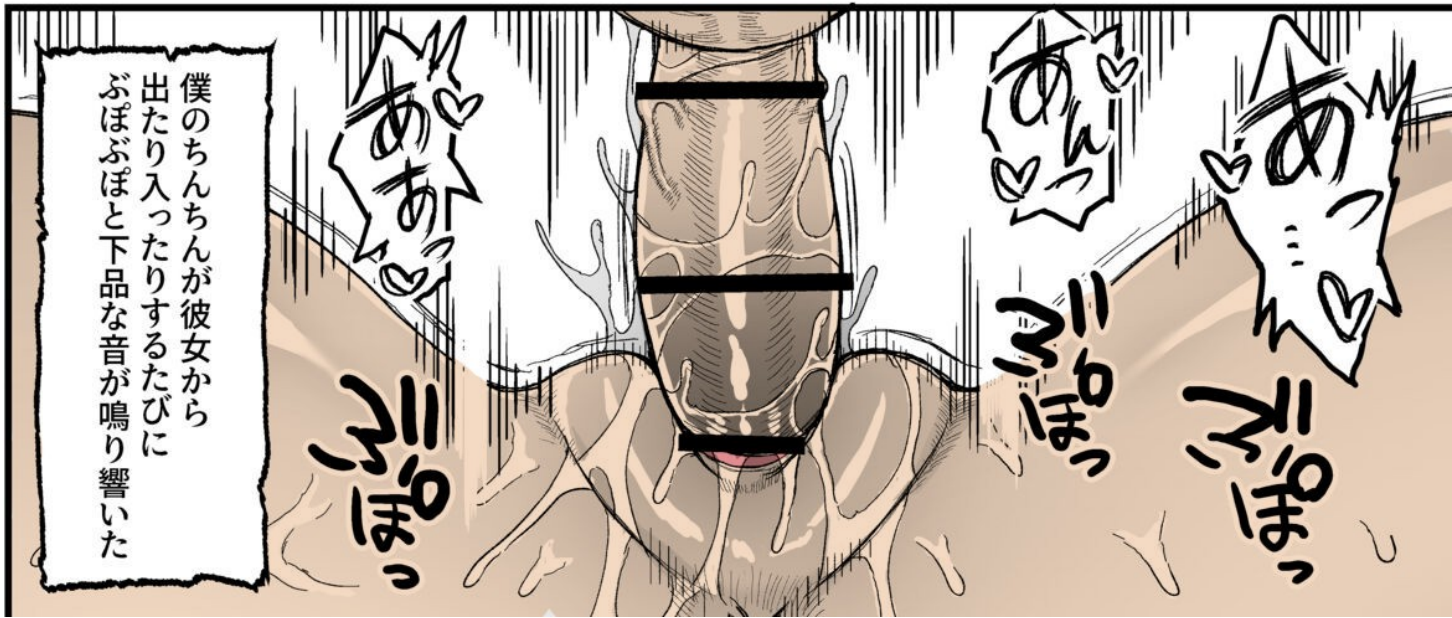
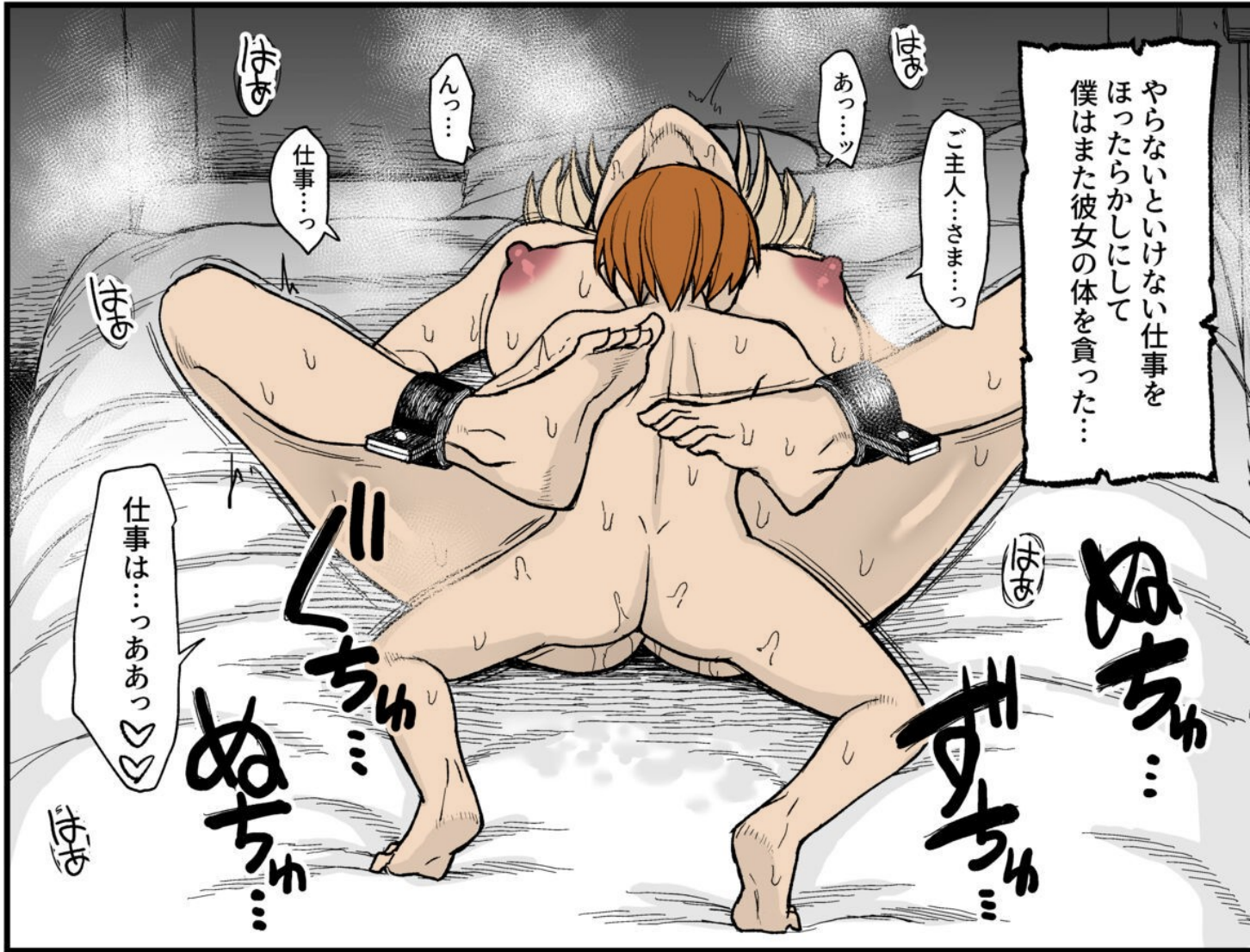
女性を便所扱いしてる
みたいでひどく興奮した…



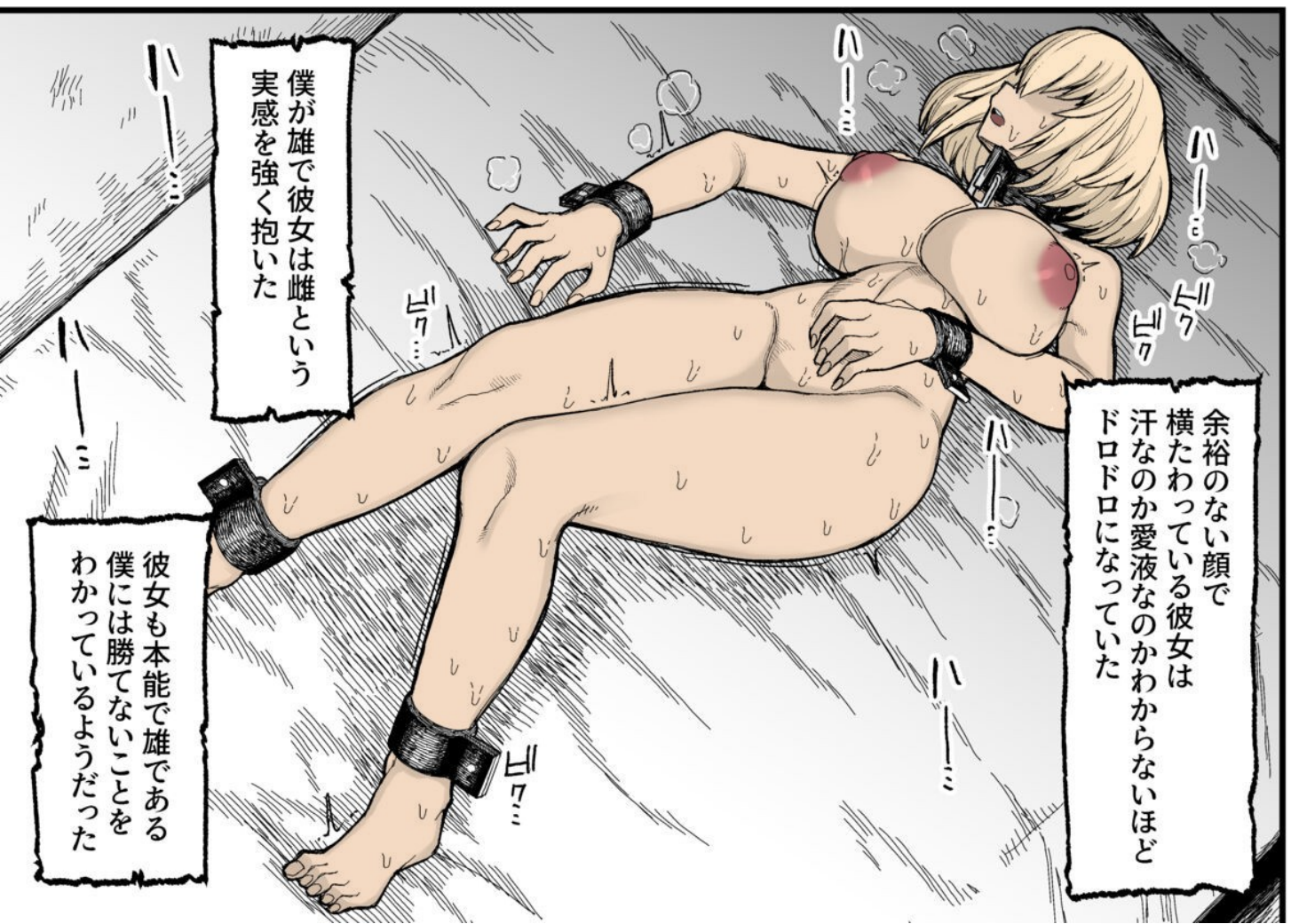
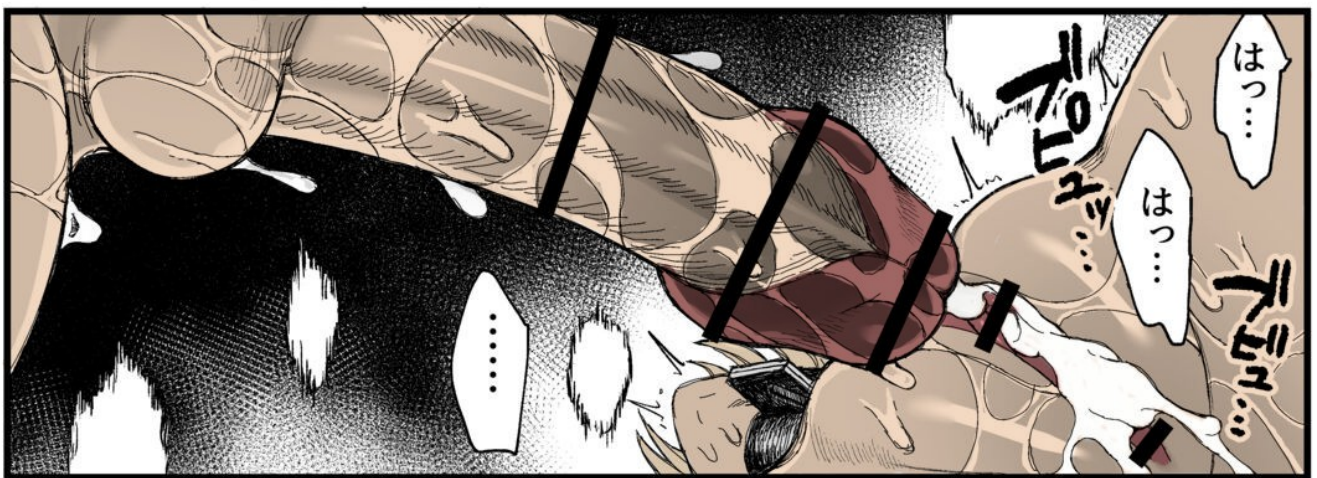
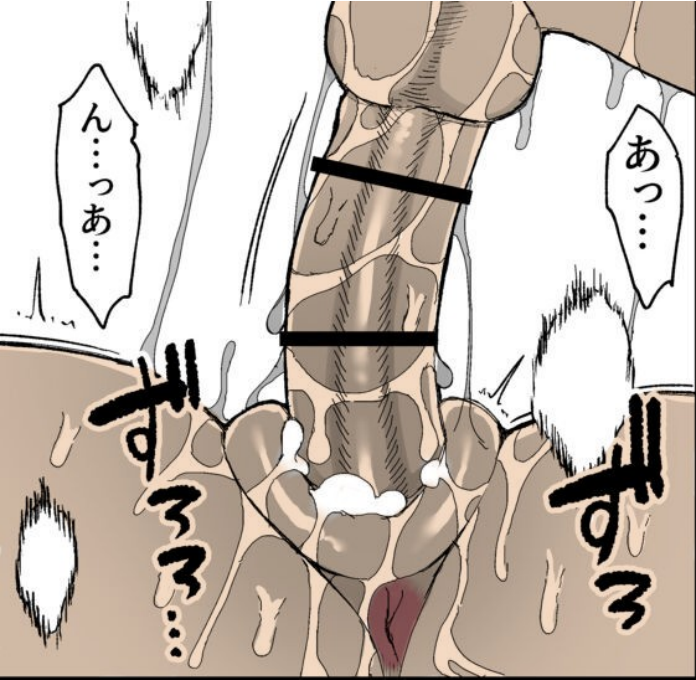
彼女は当然のように
ごくごくと精液を
飲んでくれた

んん…

はぁ



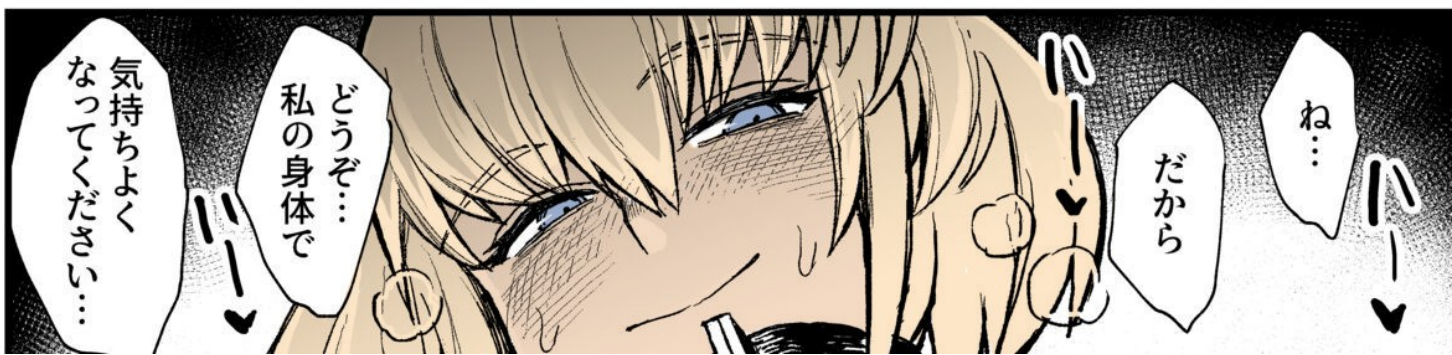
僕のちんちんが彼女から
出たり入ったりするたびに
ぶぶぶと下品な音が鳴り響いた



僕が雄で彼女は雌という
実感を強く抱いた

余裕のない顔で
横たわっている彼女は
汗なのか愛液なのかわからないほど
ドロドロになっていた

彼女も本能で雄である
僕には勝てないことを
わかっているようだった



僕は彼女を
買った

僕が買った。
僕だけの奴隷

彼女は料理や掃除、雑用は
すべてやってくれている
奴隷商人に教育を受けるらしい

どうでもいい…
この目の前の女を
という欲求だけだった

レイプ

彼女は当然のように
ごくごくと精液を
飲んでくれた

Do you like
my job?
Would you
like to see
your
favorite title
colored?
Write in the
comments.

(No more than 20
pag. for each title)